



令和4年度

鹿児島県の教育

4・5月号

巻頭言



一般財団法人鹿児島県校長会館理事
長 鶴丸高等学校長
前田光久
県連合校長協会会長

ベテラン教師とDX

連合校長協会は、昨年度百六十一名がご退職により退会され、今年度百六十六名を新たにお迎えし、小学校長部会長に西園香緒利校長、特別支援学校長部会長に迫田博幸校長が就任された。全国でも珍しい四校種校長会の連合体という特性を活かしながら、当面する様々な教育課題の解決に向け、今年度も会員の皆様の積極的な取組と相互の連携・協力をよろしく願いたい。

さて、コロナウイルス感染症への対応も三年目に入った。この間、小中学校ではGIGAスクール構想とも相まった形で、「学びの保障」をその軸とした学校のDX化が進められてきており、高校でも新学習指導要領が実施される今年度の新入生から、生徒全員へのタブレット端末配布が予定されている。これに関して文科大臣からは「今後は授業などで端末をマスタアイテムとして活用していくための支援を行う」とのメッセージが出されたが、このことは、授業での端末活用がもはや教師であるための「必修科目」であり、「未履修」を避けるためには校長の「支援」が「マスト」であることを示している。

て欲しい力も少しずつ変わっていく。当然のことながら、デジタルネイティブ世代への指導の在り方も不断の工夫改善が求められる。しかしながら、長年の経験を基に築かれた授業スタイルを変えることは結構難しい。ベテランと呼ばれる人ほど授業法に自信を持っており、改善の必要性を感じにくいのではないかと。

この点について島根県教育魅力化特命官の岩本悠氏は「年齢を重ねるほど、特に従来のやり方で成功体験を重ねてきた人間ほど固くなりやすいものである。ただ、そうした人たちが変わろうとすることの影響力は非常に大きい。自分や周りの人間の学びを阻害しないためには、年をとるほど『意識的に』学びに向かう必要がある。」と指摘している。果たしてベテラン教師に対する校長の「支援」はいかにあるべきか。今まさに管理職としての姿勢が問われているように思う。

感染症の終息が見えない中、本協会においても各種会合の多くを中止または書面開催とせざるを得ないところではあるが、今こそ四校種がそれぞれに、また校種を越えて知恵を出し合いながら、子どもたちの幸せのために一歩でも前に進んでいくことを願っている。

令和4(2022)年4・5月号

一般財団法人鹿児島県校長会館

〒890-0056 鹿児島市下荒田四丁目32-13

振替 02030-1-3192

TEL 257-9676 FAX 257-9679

(有)アクト印刷

鹿児島市東坂元二丁目29-1

TEL 247-1605 FAX 247-2844

* おもな内容 *

巻頭言	1	読書案内	13
提言	2	校長会館のご案内	15
退任にあたって	4	一般(助)県校長会館だより	16
新任の抱負	7	編集後記	16
ある日の校長講話	11		